

問1 飛鳥時代から平安時代にかけて、日本の朝廷は先進的な制度や文化を学ぶために中国へ使節を派遣しました。この使節の名称にも使われており、日本の律令国家形成に大きな影響を与えた中国の王朝名を選びなさい。（2023年 秋田県公立入試 類似）

1. 唐 2. 隋 3. 宋 4. 元

問2 7世紀後半、天智天皇の死後に発生した後継者争いである壬申の乱に勝利し、天皇を中心とする強力な国家の建設を推し進めた人物は誰ですか。（2022年 福岡県公立入試 類似）

1. 天武天皇 2. 聖武天皇 3. 桓武天皇 4. 藤原道長

問3 天智天皇が「庚午年籍（こうごねんじゃく）」と呼ばれる日本で最初の全国的な戸籍を作成した最大の目的は、どのような点にありましたか。当時の社会背景を踏まえて、最も適切な理由を選びなさい。（2018年 埼玉県公立入試 類似）

1. 全国の人民の名前や住所を把握することで、公平に土地を分け与えるとともに、兵役や税を課すための基礎とするため。  
2. 仏教による国家の安定を目指し、全国の寺院に住む僧侶の数や修行の状況を把握して管理するため。  
3. 遣隋使や遣唐使として渡航する優秀な人材を見極めるため、氏姓制度に基づいた豪族の家系図を整理するため。  
4. 大規模な干拓事業や東大寺の建立にあたり、必要な労働力を確保するために浮浪化した農民を強制的に連れ戻すため。

問4 7世紀初めの飛鳥時代において、推古天皇の摂政である聖徳太子が、豪族の蘇我馬子と協力して行った政治や外交の説明として、最も適切なものはどれですか。（2024年 福岡県公立入試 類似）

1. 中国の進んだ制度や文化を取り入れるため、小野妹子らを遣隋使として派遣した。  
2. 律令制度を完成させるため、中臣鎌足とともに大化の改新に着手した。  
3. 唐の制度にならって平城京を建設し、最澄や空海を遣唐使とともに随行させた。  
4. 仏教を広めるために鑑真を日本に招き、東大寺に大仏を建立して国を治めようとした。

問5 白村江の戦いでの敗北後、天武天皇が全国的な戸籍を整備し、中央集権体制の構築を急いだ目的や背景として最も適切な説明はどれですか。（2024年 鳥取公立入試 類似）

1. 人々の身分と居住地を正確に把握することで、天皇が民衆を直接支配し、防人などの徴兵や税の徴収を確実にするため  
2. 有力な地方豪族に土地の私有を認めることで、地方の開墾意欲を高め、国家全体の生産力を向上させるため  
3. 仏教の力を借りて国家の災いを取り除くため、全国に国分寺や国分尼寺を建立する資金源を確保するため  
4. 唐にならって商業を盛んにするため、和同開珎などの貨幣を発行し、市場での取引を全国的に管理するため

問6 日本の古代における国防政策について述べた次の文のうち、当時の国際情勢に基づいた建設の背景・目的として、最も適切な説明はどれですか。なお、この時期には朝鮮半島に近い北九州から大宰府周辺、さらには瀬戸内海沿岸にかけて、山城や水城といった施設が集中して建設されていました。（2019年 島根公立入試 類似）

1. 白村江の戦いで敗れた後、唐や新羅による日本本土への報復や侵攻に備えるため  
2. 壬申の乱における軍事的な混乱を収束させ、中央集権体制を確立するため  
3. 新羅と結んで高句麗を滅ぼした後、大陸へのさらなる領土拡大を狙うため  
4. 磐井の乱などの国内の反乱を抑え込み、九州地方の豪族を支配下に置くため

問7 飛鳥時代において、聖徳太子（厩戸王）を摂政に任命し、協力して天皇を中心とした国づくりを進めた日本初の女性天皇は誰ですか。（2026年 静岡公立入試 類似）

1. 推古天皇 2. 持統天皇 3. 天武天皇 4. 天智天皇

問8 大宝律令のもとでの人々の負担について記した資料によると、口分田を与えられた農民には、収穫した稲の約3%を納める「租」のほかに、布や特産品を納める負担や、九州の北海岸を警備する「防人」などの兵役が課されていました。このような制度が整えられた主な目的として、最も適切なものはどれか。（2020年 広島公立入試 類似）

1. 公地公民の原則に基づき、国家が土地と人民を直接支配して税収や軍事力を確保するため。  
2. 有力な農民に土地の私有を認めることで、地方の開墾を促進し、農業生産力を高めるため。  
3. 土地を所有する権利を証明する「地券」を発行し、税制を金納に統一して財政を安定させるため。  
4. 地主から土地を買い上げて小作人に安く売り渡すことで、農村の貧富の差を解消するため。

問9 聖徳太子が建立した法隆寺に代表される、日本で最初の本格的な仏教文化について、その名称として正しいものを選びなさい。（2024年 三重公立入試 類似）

1. 飛鳥文化 2. 天平文化 3. 国風文化 4. 東山文化

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 唐	聖徳太子の時代の遣隋使に続き、日本では大化の改新から平安時代の中期にかけて「遣唐使」が派遣されました。日本はこの王朝の優れた政治制度である律令や、仏教、儒教などの文化を吸収することで、中央集権的な国家体制を整えていきました。選択肢にある隋は唐の前の王朝、宋や元は唐よりも後の時代の王朝です。
問2	<b>答え 1</b> 天武天皇	天智天皇の弟である大海人皇子が、天智天皇の子である大友皇子を倒した壬申の乱を経て即位しました。この勝利により強大な権力を手にしたことで、豪族を抑えて天皇に権力を集中させ、律令国家の基礎を固めることが可能となりました。
問3	<b>答え 1</b> 全国の人民の名前や住所を把握することで、公平に土地を分け与えるとともに、兵役や税を確実に課するための基礎とするため。	大化の改新から始まった「公地公民」の原則を具体化するためには、政府が直接人民を把握する必要がありました。天智天皇が作成した庚午年籍は、人民に口分田を与えて耕作させ（班田収授）、代わりに税（租・庸・調）や兵役（防人など）を課するための台帳として機能しました。特に当時の日本は唐や新羅の脅威にさらされていたため、兵力を確保するための人民把握は急務でした。
問4	<b>答え 1</b> 中国の進んだ制度や文化を取り入れるため、小野妹子らを遣隋使として派遣した。	聖徳太子は推古天皇の摂政として、蘇我馬子と協力して天皇中心の政治を目指しました。その一環として、当時中国を統一していた隋の高度な文化や制度を学ぶため、607年に小野妹子を遣隋使として派遣しました。中臣鎌足は大化の改新、遣唐使は隋の後の唐に送られた使節、鑑真や大仏建立は奈良時代の出来事であり、時期や人物が異なります。
問5	<b>答え 1</b> 人々の身分と居住地を正確に把握することで、天皇が民衆を直接支配し、防人などの徴兵や税の徴収を確実にするため	対外的な危機に際し、日本を一つの強力な国家としてまとめる必要がありました。戸籍の作成は、それまで豪族が私有していた「民」を「公民」として国が直接管理することを意味します。これにより、誰がどこに住んでいるかを把握し、軍事的な防衛力の確保（徴兵）や、国家運営に必要な租・庸・調といった税を安定して集めることが可能になりました。これが律令国家における中央集権体制の根幹となりました。
問6	<b>答え 1</b> 白村江の戦いで敗れた後、唐や新羅による日本本土への報復や侵攻に備えるため	663年の白村江の戦いにおいて、日本は百済復興を支援したものの唐・新羅の連合軍に敗北しました。これにより、勝利した唐や新羅が日本へ攻め込んでくる可能性が高まったため、当時の政権は国家の存亡をかけて国防を強化しました。北九州から大宰府にかけて防衛施設が集中しているのは、そこが地理的に大陸から最も近く、侵攻ルートになることが予想されたためです。
問7	<b>答え 1</b> 推古天皇	592年に即位した推古天皇は、甥である聖徳太子を「摂政」という役職に就け、共同で政治を行いました。この時期には冠位十二階や十七条の憲法の制定、遣隋使の派遣など、中国（隋）の制度を取り入れた重要な政策が次々と打ち出されました。
問8	<b>答え 1</b> 公地公民の原則に基づき、国家が土地と人民を直接支配して税収や軍事力を確保するため。	律令国家は、土地と人民はすべて天皇（国家）のものであるという「公地公民」の思想を基本としていました。班田収授法によって人々に口分田を配分する見返りとして、租・調・庸といった税や兵役などの重い義務を課し、中央集権的な国家体制の財政と防衛を支えようとした。
問9	<b>答え 1</b> 飛鳥文化	7世紀前半、聖徳太子が政治を執り行った時代を中心に栄えた文化を飛鳥文化と呼びます。法隆寺の建築や仏像などには、中国の南北朝時代の文化や、さらに西方のインドやギリシャの影響も見て取ることができます。